

サザエさんのなぞ

京都教育大学教授

森山卓郎

国民的漫画の「サザエさん」。実は、サザエさんには言葉の謎があるのだ。どんな謎かって？ では、ちょっとおつきあい下さいませ。

日本語にはアクセントがあつて、語のまとまりによつて、音の高低が決まっている。共通語で言えば、「あめ」(雨)と「あめ」(飴)のように高さが違う(太字は高い音を表す)。

おもしろいことに、いくつかの語の「形」では、このアクセントに決まりができています。共通語では、例えば、「いたい」という形にすると、どんな動詞でも「○○+た」までが高くて、「い」が下がる。例えば、「走る」「飲む」「死ぬ」は、「はしる」「のむ」「しぬ」のよ

うに、それぞれ動詞本来のアクセントが違ふ。ところが、これらに「たい」をつけて発音すると、「はしりたい」「のみたい」「しにたい」のように、みんな下がり目は「た」の後だ。

人の名前でもこんなルールがある。例えば二音の人名だと、

かな、くみ、ゆき、うた、ゆか

のように、最初の音が高くて次の音が低い。共通語では、季節の「夏」は「な」が低くて「つ」が高く、「なつ」となる。が、人の名前として発音すると「な」が高くて「つ」が低く、「なつ」となる。磯野家の「フネ」さん(サザエさんのお母さん)も、このルールに当てはまる。最初の音の「フ」が高くて、「ネ」が低い。

そこで、「サザエさん」。実は、「○

○枝」「○○江」などのお名前では、最初の音だけ低くて、後は高いまま続くというルールがある。つまり下がり目はないのだ。

ゆきえ、まさえ、はるえ、……

など、平板になつて高く続くのだ。

ところが、「サザエ」さんは違ふ。「○○え」という名前なのに、最初の音だけが低い。「さざえ」という発音なのである。これでは貝の、あの「サザエ」と同じアクセントである。

サザエさんの場合、「○○え」という名前のように見えていても、人名についてのアクセントのルールが当てはまらない。うーむ……ねえ、サザエさん、どうしてあなたは「さざえ」さん？